

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 桑名市	対談項目1 広域避難施設の建設について		<p>地震・台風などの災害時に桑名市内だけの避難ではなく、愛知県や岐阜県を含めた近隣市町からの広域的な避難者を収容する施設が必要と考えているが、整備についての考え方を伺いたい。</p> <p>また、愛知県、岐阜県を含めた3県で広域避難について、話を進めてほしい。</p>	<p>平成24年8月に「三重県市町災害時応援協定」の改定を行い、避難所の提供について県が市町間の調整を行うこととした。本年度の「県と市町における災害時広域支援体制構築連携会議」において、「広域避難」のあり方に関する具体的な検討を進めることとしています。この検討の中で、広域避難施設が必要となった場合は、次のステップとして、その建設費用の分担等について、検討していくことになると考えています。</p> <p>東海3県1市の知事市長会議の場（9月）で、県境部を超える広域避難について、全体の協議課題にできるかどうか分かりませんが、問題提起したいと思います。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 桑名市	対談項目2 社会福祉士等専門職配置にかかる人件費補助について		平成21年4月から「子ども総合相談センター」を開設し、悩みの相談活動の充実に努めているが、相談件数は年々増加傾向にあり、特に児童虐待に関する相談は飛躍的に増え続けている。現在、職員を8名配置しているが、加えて、社会福祉士を配置していきたい。そういう方を採用する際の人件費の補助的な考え方が県にないのかお伺いしたい。	平成17年に児童福祉法が改正され、児童虐待に関する相談業務は基本的に市町で行うこととなっており、法律に定められている相談業務をやる市町の体制を強化するのは、国一律の課題であり、市町の職員の人件費を47都道府県の判断で出すというよりは、国がしっかりと確保していくということが筋だと、法律権限上も思っているため、そういう考えで国に要望をしている。 一方で、質的向上や連携強化については、県もしっかり汗をかいていきたいと考えている。

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 桑名市	対談項目3 市立小・中学校悠 分校の県立への移 管について		<p>小・中学校悠分校は、桑名市立となっているが、あすなる分校が県立に移管されると伺って、悠分校も桑名特別支援学校の分校という形で県立に移管していただけないか。</p> <p>桑名に原籍校がある子は1名で、県外から来られている子が非常に多いので、県立でも国立でも良いのではないかというぐらいの考え方でいるので、ぜひともご検討いただきたい。</p>	<p>あすなる分校については、高度な医療行為を必要とすることから、入院する児童生徒は、学校教育法上、特別支援学校で対応すべき「病弱者」であること、また、小中学校等の発達障がい児への指導における相談や研修等に対応するセンター的機能を担っていきたいという部分があって、県立とすることが適切と判断した。悠分校については、一応学校教育法上の特別支援学級で対応する「情緒障がい」の児童生徒を対象としているので、現状の枠組みの中で支援を厚くしていこうというのが県の考え方ではありますが、実態上は、線引ができない部分もあると承知しており、理解していただきにくい課題なので、引き続き、加配など人的支援を続けながら情報共有を行い、今後のあり方を協議していきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 桑名市	対談項目4 伊勢大橋架替事業の促進について		<p>国道1号「伊勢大橋」は完成から約80年が経過し、通行に不安を感じています。今回の国の予算を12億円ほど付けていただき、市民としては、本当に悲願の予算が付いたと思っています。これから様々な補償の調整等もあるが、我々も全面的にサポートして取り組んでいくので、伊勢大橋架け替えの早期完成に向けた支援を要望します。</p>	<p>国道1号は、桑名市さんも県も国交省へ一所懸命要望してきた結果、事業費が25年度12億円となり、1つの端緒が開いたので、引き続き、今後もあらゆる機会をとらえて、国に強く働きかけていきます。</p>
5 桑名市	対談項目5 道路ネットワークの整備について	<p>県道御衣野下野代線について</p>	<p>トヨタ車体、富士通など企業のルートとして、国道258号へ出るための重要な路線である「県道御衣野下野代線」について、ルート変更も含めて抜本的に見直して早急に整備に取り組んでいただきたい。 養老鉄道を高架にするという話をしてきたが、今30分に1本から40分に1本になってしまっていて、高架にしなくても、踏切信号のようなものにした方が利便性も高いし、費用的にも大分収まるという気がしているので、建設事務所と話をしていきたいと思っています。</p>	<p>四日市多度線(力尾地内)、桑部橋南詰交差点など、現在事業着手している箇所 の進捗状況を勘案しながら、御衣野下野代線については、優先順位やルート変更など協議・調整していきたい。 建設事務所にご要望をいただいている中で、市におけるプライオリティは最も重要な点であるので、建設事務所と議論をしていただければと思います。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 桑名市	対談項目6 養老線活性化事業について	<p>養老鉄道は岐阜県と三重県を結んでいる鉄道であるが年間9億円の赤字が出ており、沿線市町の首長の会議があり、岐阜県が補助金の創設をして5千万円出しているという話があって、「桑名市も県にしっかり応援するように言ってもらわないといけない」と、その会議で言われている状況である。県として地方の皆さんの足としての鉄道に対して、どのように考えているか。</p> <p>また、具体的に養老線に対して県から補助金を出してもらえないか。</p> <p>県職員や、学校関係者の皆さんの利用促進をお願いしたい。</p>	<p>県として地域交通にどう臨んでいくのか、県の役割の果たし方を議論するため、総合交通ビジョンの審議会を立ち上げていく予定です。</p> <p>岐阜県がこれからどういう風に養老線の支援を考えていきたいのかということ調査していきたい。また、岐阜県地域公共交通協議会の今後の考え方を調査したうえで、沿線市町の皆様とも議論していきたい。</p> <p>岐阜県の調査、総合交通ビジョンも考えていきたいので、26年度予算には間に合わないが、岐阜県との関係調査はしっかりとやっていきたい。</p> <p>一応毎週水曜日を「ノーマイカーデー」としているが、道路の予算をかけて渋滞緩和に税金を投入しているのに、行政の職員がその渋滞のプレイヤーになるようなことでは良くない。公共交通機関を率先して利用していくほうが、いろいろな意味で良いと思っているので、職員にいろいろな手法で伝えていきたい。</p>